2025 9/1 発行

上新城 ふるさと瓦版 Vol.25 紙上交流サロン

9月15日は「敬老の日」。誰もがいつかは老いていくものですが、どんな心持ちでいれば心地よく過ごせるのでしょうか。ヒントを求めて、小又にある日徳山昌東院にうかがいました。

今回のテーマ 老い

今回の話し手

辻 匡人さん（昌東院住職）写真中
辻 麻矢さん（花園流御詠歌 準師範）写真右
辻 奈月さん（昌東院副住職）写真左

―日徳山昌東院は、四五十年近く続く臨済宗妙心寺派のお寺です。地域の方々とのお付き合いも深く長いですよね。上新城の人口のボリュームゾーンは70代ですが、現役でお元気な方が多い印象です。

匡人さん　上新城は福祉施設が整っていて、「福祉の里」のはしり、桃源郷と言われることもあるような土地。わりと「ピンピンコロリ」の方が多いかもしれませんね。

―自分も「老い」がせまっていることを実感するときがありますが、困惑したり、がっかりしたりすることが多いです……

匡人さん　だんだん人間らしくなってきたな、と思えばいかがでしょう。あと若い人と交流するのはいいですよ。学ぶことも多いし元気をもらえる。うちの副住職は、月命日にお茶飲みを兼ねた「女子会」に呼ばれたりもするんですよ。

麻矢さん　環境的に、あんまり若い世代と同居している世帯がないですからね。話し相手というか、孫が来るような感覚というか。

奈月さん　スマホの使い方を教えてみたり、仏事以外のたわいのないことをお話ししたり。ありがたいですね。

―若い副住職からみて、上新城はどんな印象でしょうか？

奈月さん　同級生で地元に残っているのは、自分も含めて2人だけ。高齢化に歯止めのかかる時期は逸してしまっていて、市街化調整区域であることからも、人口が増えることについては難しさもあるのではと思います。地区外から人を迎えて、何かを体験する場としてはいいのかなと思ったりしますね。

（上新城に対して）地区外から人を迎えて、何かを体験する場としてはいいのかなと思ったりしますね。

匡人さん　その点でも「お寺を楽しい場に」と思っていて、地区内外の人が、相乗効果で元気になるようなイベントも行っているんですよ。お寺には、社会貢献というお役目もありますのでね。春彼岸には、これまでも大森山動物園の園長にご講話いただいたり、羽川剣ばやしや秋田万歳をご披露いただいたりしました。

その点でも「お寺を楽しい場に」と思っていて、地区内外の人が相乗効果で元気になるようなイベントも行っているんですよ。

麻矢さん　家族みんなで楽しんでもらえたらね。副住職の小さい頃は子ども会もあったし、夏はオバケ大会、冬はスキー合宿もしていました。地域のつながりが強かった。年を取ってきてからは、なおさらイベントを大事に、盛んにやっているような感もありますね。

匡人さん　女性と子どもたちが元気だと、男性へも波及するのでいい。町内会単位で旅行するところも出てきたようです。老いの中で老いを楽しむというかね。

―世代間、地域間の交流が、楽しく老いるためのポイントでしょうか。ところで「あの世」ってあるんですかね？

奈月さん　行ったことがないから分かりませんね(笑)けして享楽的な意味ではなく、この世の「今」がよければいいのではないでしょうか。たとえば、ひと月先の予防注射があるとして、その日までハラハラ心配しながら過ごすより、その間をアハハウフフと過ごせば有意義ですよね。

麻矢さん　白隠禅師（臨済宗中興の祖とされる禅僧）だけは、明確に「あの世はない」と断言しています。ただ天国があるということが救いになることもあるから、希望を奪うことはできませんけれども。

匡人さん　未来も過去もないのが、禅の世界。座禅もそれを体感するもの。明日のお天気も分からないのに、幸せも「今」にしかないんですよ。

―なるほど……

匡人さん　あとね、忘れていくことも幸せなんです。だって嫌なことや、うらみつらみも忘れて、自分に正直でいられる。上も下も、持ってる持ってないも全部なくしてね。相手も自分も許せるようになってくるんですよ。

―忘れっぽくなってきても、そういう見方でとらえれば悪くなさそうですね。

匡人さん　年を取ってくると百戦錬磨ですからね、忘れたふりもできる(笑)　学ぶことも多いし、高齢者の存在は宝の山ですよ。

奈月さん　煩悩というのも、思い通りにならないことをなんとかしようとするから生まれます。忘れっぽくなるということは、良いふうに取捨選択していることでもあり、生きながらにお浄土への道を歩んでいるようなものかもしれませんよ。先達がいるということはありがたいことですね。

麻矢さん　お寺の中に何気なくある掛け軸や色紙、文字という文字も、悟りに至る道へのメッセージです。よかったらこちらにも目を向けてみてください。何か気づきを得られるかもしれませんよ。

お寺の中に何気なくある掛け軸や色紙、文字という文字も、悟りに至る道へのメッセージです。よかったらこちらにも目を向けてみてください。

コラム

御詠歌（ごえいか）
仏教の教えを、五・七・五・七・七の和歌にし、節（旋律・メロディー）をつけたもの。「讃仏歌」とも言われ、鈴（りん）と鉦（かね）の美しい響きに乗せて唱えられます。お経の内容に、自然に親しむことができます。